

「市議会選挙に立候補するか検討中なのですがどう思われますか？」

平成31年2月6日

●三毛猫さんからの質問

こんにちは！寒さが応える毎日ですが春の息吹が少しずつ感じられる気がします！ところで質問ですが私一塊の会社員ですが地元の市議会選挙が二年後に迫り市議会選挙に立候補するか検討中なのです！祖父が市議会議員を勤めていたことからと市政の在り方に疑問と不安を覚え自分が何を出来るのからチャレンジしたいと以前から考えていました！西田先生も県議会議員と国会議員として活動されているようですが政治家として地元や支援者の方々とどのようなお付き合いをしたらよいのでしょうか？政治家として大切な心構えや格言があれば教えてください！

●西田昌司の答え

私は31歳で京都府議会議員になりましたが、私の父も京都府議会議員を5期務めました。父は平成元年の参議院選挙に自民党公認で出馬しましたが、消費税を導入したことで自民党が大敗した選挙だったのにもかかわらず、父はなんとか第2位で当選して参議員議員となりました。

その後、父が京都府議会議員を辞めたことによる補欠選挙があり、当初は私とは違う人が立候補する予定でしたが、その方が家庭の事情で出られなくなってしまったのです。その当時、私は税理士を開業したばかりでしたし、選挙に出るつもりはありませんでしたが、父の空けた穴であるために誰かが出なければなりません。そのような訳で私が立候補する運びとなってしまったのです。

政治の世界は非常に厄介ですし、わざわざそんな世界に入らなくても普通に税理士をやっている方が余程気楽に人生を送れます。私はたまたま政治家になってしまいました。政治家の多くは自ら志願してなったのだと思いますし、政治家になるためには自ら道を切り開いていかなければならない部分ももちろんあります。しかし、政治家とは、自分になりたいと思ってなるものと言うよりも、その時々様々状況によってある人物が政治家になることを世間から求められ、お鉢が回ってくるものです。三毛猫さんも今、周りからそのように政治家になることを期待される存在であるようですし、であればその期待に応えるかどうかは三毛猫さんが判断されればよろしいと思います。

但し、政治の世界に足を踏み込んでも世の中そう簡単には変わりませんし、非常にしんどい思いをします。戦後70年以上が過ぎた今になっても日本は未だに占領政策の延長線上にあって自立していませんし、自分の国は自分で守るという当たり前の国家となっていないことが戦後日本の最大の問題ですが、そのような問題意識を持った国民などほとんどいません。そんな現実の社会の枠内で政治を行いながら、その一方で現実の社会を少しずつ変えていかなければならないという大きな矛盾を抱えているのが政治家という仕事なのです。

また、政治家としての活動を続けるには当然のことながら選挙に勝たなければなりませんし、そのためには支援者の輪を広げる努力が必要です。いくら崇高な政治哲学を持っていようともそれだけでは人は付いてきませんし、人の心を引き寄せる人間的魅力があるかどうかは政治家として非常に重要な要素です。

一旦、政治の世界に踏み込んでしまうと、政治家を辞めるまで（一般の人とは比較にならないくらいの厳しい）修行が待ち受けています。そのことをきちんと理解した上で政治家を目指していただかなくてはなりません。そのような覚悟もなしに政治の世界に踏み込んだ後で「こんなはずではなかったのに」と嘆いてももう遅いのです。

三毛猫さんには「その覚悟はございますか」との言葉をもって回答とさせていただきます。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>